

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市総合振興計画審議会
開 催 日 時	令和3年3月30日(火) 午前・ 午後 6時00分から 午前・ 午後 8時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所202・203会議室
出席委員(者)氏名	加藤克明委員、齋藤詔治委員、小野潔委員、雪田きよみ委員、 林美希委員、小林照男委員、岡田早苗委員、竹内武委員、 戸張加代子委員、本間寛隆委員、廣瀬正子委員、菊地純松委員、 石阪督規委員、宮地さつき委員、高崎康男委員、 多々良啓一委員、高橋健太郎委員、中島新太郎委員、 石井亮英委員、齋藤和雄委員、木原十三男委員、 星座正俊委員、秋元智子委員、佐藤梨帆委員、青柳雄大委員
欠席委員(者)氏名	—
担当課職員職氏名	政策室長 野尻宗一 政策室副室長兼主幹 荒川泰弘 政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当副主幹 相川美佐子 政策室企画担当主査 東原拓哉 政策室企画担当主任 林希 政策室企画担当主事 野口陽子 都市整備部副部長兼都市計画課長 中村喜光 都市整備部都市計画課都市計画担当副主幹 宮田匡寿
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1 開会 2 市長あいさつ 3 委員の委嘱 4 委員及び事務局自己紹介 5 会長及び副会長の選任 6 諮問 7 議事 (1) 吉川市総合振興計画について (2) 第6次吉川市総合振興計画基本構想原案について ①将来都市像及びまちづくりの基本理念(案)について ②将来人口(案)について ③将来都市構想(案)について (3) 次回会議日程について (4) その他 8 閉会 [公開・非公開] 公開

非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	4人
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第6次吉川市総合振興計画策定方針について 資料1 ・策定スケジュール 資料2 ・将来都市像及びまちづくりの基本理念(案)について 資料3 ・将来人口(案)について 資料4 ・将来都市構想(案)について 資料5 ・吉川市総合振興計画審議会条例 参考資料1 ・吉川市総合振興計画審議会名簿 参考資料2 ・吉川市総合振興計画審議会傍聴要領 参考資料3
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	小林照男委員、斎藤和雄委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1 開会</p> <p>それでは、第1回吉川市総合振興計画審議会を開催させていただきます。</p>
市長	<p>2 市長あいさつ</p> <p>現行第5次総合振興計画は、先人たちが、まちづくりに込めた思いが、しっかり表現されており、また未来にも続いていくような理念となっている。市民と行政の共働により、まちの価値を高め、市民一人ひとりが幸福を実感できる、そうしたまち、未来を創ろうということがこの第5次総合振興計画の大きな理念である。それに則り、市政運営を職員一同、市民の皆様と進めてきた。</p> <p>この素晴らしい理念を今後も継承していかなければならないと考えているが、社会情勢も変わってきていることから、次の10年をめざすうえでのキーワードをお伝えしたい。</p> <p>吉川市はまだまだ人口が増え、子どもたちも増えていくまちであることから、「次の10年はチャレンジしていく」「高みをめざしていく」そういった挑戦の計画であるべきではないかと考えている。</p> <p>そうした中で、ひとつは「多様性」がキーワードとなると考えている。外国籍の方、高齢の方、子ども達、様々な分野の方々が、共有し合って、自分たちの活躍の場を作り、共に未来を創っていく、この「多様性」がキーワードではないかと考えている。</p>

審議していただく皆様には、できる限りなるべく様々な分野の方、また、女性に多くご参加いただきたいということを担当には伝えていた。これでもまだまだ女性の参加は少ないという印象を受けている。

ぜひ多くのご意見を委員の皆様からお寄せいただくとともに、「多様性」を盛り込んでいただければと思う。

もう一つが「持続可能なまち」を作っていくということである。これはシンプルであり、本質であると考えている。

そういった事業や政策、私たちの暮らし方が求められているものと感じている。

皆様には、本質的に未来にどう継続していけるのか持続していけるのかという視点で計画について吟味していただきたい。

そして最後に、持続可能・多様性を成し遂げるために「横の連携」が必要と考えている。吉川市においては、ここ数年で様々な理念を打ち立てさせていただいた。

産業振興条例、障がい者の地域での生活を考える検討会議、スポーツ、文化芸術などであるが、これらに共通することが、それだけの分野でその分野を見ないということである。

例えば、文化芸術であれば、文化芸術を振興するだけでなく、例えば、高齢者の介護予防であったり、子どもたちの不登校であったり、地域の絆などで、文化芸術の活用により、地域の様々な課題の解決を図るものである。

また、先日策定したスポーツ推進ビジョンにおいても、スポーツを通じて地域の活性化や障がい者の社会参加が求められるか、そうした横の連携を図る中で、地域の課題を解決し、未来に進む力にしたい。それを吉川市の大きな理念として考えているところである。

各分野の皆様には、これらのキーワードを頭の片隅に置いていただき、案を練っていただきたい。

次の10年を皆様と計画を立て、皆様と実行していくということをお約束し挨拶とさせていただく。今後よろしくお願いする。

3 委員の委嘱

市長から委嘱書の交付

4 委員及び事務局自己紹介

5 会長及び副会長の選任

委員から自薦・他薦の意見等がなかったため、事務局から会長に石坂委員、副会長に石井委員を選出することを提案。

会長に石坂委員、副会長に石井委員を選出することを全会一致で決定。

6 諮問

諮問文書を中原市長から石坂会長に手交。

7 議事

議事録の署名委員として小林照男委員、斎藤和雄委員を選

石坂会長

	<p>任。</p> <p>傍聴要領に基づき、会議の公開を決議。また、傍聴の人数は、コロナ禍ということもあり、5名と決定。次回以降の会議についても公開することを決定。</p>
事務局	<p>(1) 吉川市総合振興計画について</p> <p>概要等について資料1、2に基づき説明。</p>
秋元委員	<p>《質疑・意見》</p> <p>本日第1回目の審議会であり、6月にパブリックコメントを実施予定だが、パブリックコメントの前に審議会は開催されるか。また、意見の出し方として、分科会に分かれて意見出しを行うのか。</p>
事務局	<p>5月のゴールデンウィーク明け以降で、第2回審議会を開催したいと考えている。その後は進捗に併せてご案内したいと考えている。審議会としては4～5回ほど考えている。</p>
事務局	<p>(2) 第6次吉川市総合振興計画基本構想原案について</p> <p>①将来都市像及びまちづくりの基本理念（案）について</p> <p>資料3に基づき説明。</p>
小野委員	<p>《質疑・意見》</p> <p>基本理念（2）「共に生き、共に創る」のうち、「しなやかなまち」というのは、市民参画の意見でも出ていないし、表現として分かりづらく感じる。「個性や能力」「認め合い支え合う」というのは多様性を表しているかと思うが、例えば市民参画での意見にも出ていた「みんなが活躍できるまち」などに変えてはいかがかと思うが、「しなやかな」というのはどういったイメージかご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>「しなやかな」という言葉のイメージについてであるが、災害やコロナへの対応などに柔軟に対応できるというイメージで使わせていただいた。</p> <p>また、国土強靱化計画という国の方針があるが、「強くしなやかな」という表現がテーマとなっているのでそちらをヒントとして考えたものである。</p>
石阪会長	<p>基本理念（2）については、どちらかと言えば、「共に生きる」とか「みんなで支え合う」という言葉をもっと使った方が良いのではないか。という意見だったかと思う。</p> <p>もっとわかりやすい表現はないかなど、将来都市像の説明部分についてもご意見をお伺いしたい。</p>
青柳委員	<p>基本理念（2）についての言葉の選び方は、先ほどの意見でも事務局案でもどちらでも良いかと思う。</p> <p>基本理念については、次の具体的な部分を決めていく際に、ある程度抽象度が高いほうが良いと感じる。ただし、どちらかと言えば、基本理念（2）については、先ほどのご意見のとおり、人に対する部分が強いと感じるので、「力強くしなやかなまち」よりも「みんなが活躍できるまち」の方が良いと思う。</p>

佐藤委員	レジリエンスという言葉が最近よく耳にする。そういった概念を取り入れており、レジリエントな社会を基盤としてそこで活躍していくというニュアンスが汲み取れているものと考え、元々の事務局案に賛成する。
齋藤（詔）委員	事務局案としては、一つ指標を示してくれたわけだが、豊かさとか健康とか色々な面があるので、色々な角度から見て、もっと練りあげていくべきと考える。本日で決定するのではなく、各団体の代表の方もいらっしゃるかと思うので、持ち帰ってもう少し議論を深める猶予をいただきたいという意見である。
石阪会長	ご意見のとおり、本日決定するものではない。皆様からのご意見をいただき、パブリックコメントでの意見も踏まえながら最終的にまとめていくものと考えている。ぜひ皆様のご意見を伺いたい。
林委員	<p>佐藤委員からレジリエンスという言葉があったが、しなやかさという言葉はこれからの社会でも重要なキーワードだと考える。</p> <p>活躍というのは大事なことであり、「女性活躍」と言われて久しいが、ガツガツやっていくことに疲弊している世代もいる。</p> <p>力強さや活躍することも重要視しながら、それだけではなく「しなやかさ」という部分も表現として入れると柔らかい印象になるのではないかと考える。</p>
木原委員	策定方針において、「SDGsの視点を踏まえた計画づくり」とあるが、原案のどういった部分に表れているか。
事務局	<p>基本理念（１）「誰一人取り残すことのない」基本理念（２）「認め合い、支え合う」という多様性の部分、基本理念（３）「持続可能」といったキーワードを盛り込んでいる。</p> <p>また今後の計画においては、SDGsの17のゴールや、相乗効果を高めることを意識するとともに、未来を見据えた計画づくりはバックキャストの発想から考えるSDGsの視点である。</p>
秋元委員	<p>国の方向性として、2つの重要な施策として脱炭素、DXというものがある。脱炭素により、強靱なまちづくり、持続可能なまちづくり、安全安心なまちづくりにつながるし、重要なキーワードと感じる。2050年までのゼロカーボンシティの実現や、SDGsでは2030年までに誰一人取り残さないと示されている。</p> <p>安全安心、強靱、災害対策、災害に強いまちということは幸福感につながるのかもしれないが、安全安心も基本理念に入れた方がよいのではないか。</p>
石阪会長	脱炭素社会の実現となると、かなり具体的な部分となるので、今後議論するまちづくりの目標や基本計画で議論するところ

	<p>ろとも考えるが事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>まちづくりの基本理念は抽象的な表現で表されているが、まちづくりの目標や基本計画で具体的な部分を表現できればと考えている。</p> <p>安心安全については、幸福感や持続可能といった部分で読み込んでいるところと考えている。</p>
木原委員	<p>子ども教育に関する部分というのはどこで読み込めるのか。</p>
事務局	<p>表現が難しい部分もあるが、健康で笑顔あふれる暮らしや、幸せが家族や地域に広がりといったところで、地域の一体感も含め読み込んでいるものと考えている。</p>
石坂会長	<p>世代を超えて未来につなぐというところやお互いを認め合い、支え合いといった部分も教育などに関連した意味にとれるかと思う。</p>
事務局	<p>②将来人口（案）について 資料4に基づき説明。</p>
石井副委員長	<p>《質疑・意見》 吉川美南駅東口開発の住宅が低層住宅かマンションかなどの要因によるかと思うが、西口の住宅もまだ余力があるので、77,000人という将来人口はまずまず妥当と考える。</p>
中島委員	<p>将来人口は、これくらいになるだろうということは承知した。今後話し合いが行われる部分かもしれないが、旭小は1学年1クラスで児童数が減少している。美南小は1学年に7、8クラスの状況であり、1,000人規模の学校になっている。このままでは、学校運営に支障をきたすものと考えている。旭小、三輪野江小の児童数の減少という事に対して、政策をどう打ち出していかお伺いしたい。</p>
事務局	<p>5自治連合会に分けて、人口推計させていただいている。このままの推計を機械的に当てはめると、旭・三輪野江は減少していく推計となる。</p> <p>計画での施策を展開していく中で、各地区の人口の問題も対応を検討していきたい。</p>
中島委員	<p>後での議題かもしれないが、旭・三輪野江地区には、人口増加をするような対応を考えないと、どんどん人口減少してしまうので、今後の議題として取り組んでいただきたい。</p>
小林委員	<p>77,000人という人口の目標設定は良いが、達成できるかはかなり心配である。</p> <p>推計にあたっての直近データとして令和2年4月1日の住民基本台帳をもとに算出されているが、コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度の出生数は激減するという予測が出ている。令和2年度の予測値で進めていくと、最新値で見たときに結</p>

	<p>果がかなり変わってしまうのではないかと考える。</p> <p>10年の計画を立てるわけであるが、例えば5年なり計画を見直すのかというところ、レジリエンスというご意見が先ほどあったが、予測のできないことが起こり得るものと想定して人口の予測を立てることとなるかどうか。</p> <p>また、地区ごとの人口増減として、社会増減を詳しく精査する必要があると考えている。合計特殊出生率1.40で推移するという考え方はおそらく正しいと思う。ただし、合計特殊出生率の計算方法は、15歳から49歳までの出生数のデータのとり方であるので、出産可能な年齢の社会増がどれくらいかということを加味しないと追いきれないと思う。</p> <p>目標設定77,000人ということはよろしいかと思うが、社会増の部分をもっと詳しく、慎重に考えるべきであると考えている。どの地区ではターゲット層をどの年代として流入を見込むのかということも明確にしていくと各地域の人口増が見えてくるのではないかと思う。</p> <p>また、合計特殊出生率で推計されているが、合計特殊出生率だけではなく、出生数の実数でも算出したほうが的確な数字が出るのではないかと考える。</p> <p>これは意見なので、事務局で検討いただければ結構である。</p>
石坂会長	<p>見直しは適宜行うということで良いかと思う。新しいデータも出てくるかと思うので、前提条件が変わってくれば、それを起点に考え直すことが必要となる可能性もある。</p> <p>その他の意見については、エビデンスについて整理していただき、77,000人の将来人口を出すか事務局において、検討していただくということによいか。</p> <p>地区別の話については、戦略的にどうしていくということについては、次の将来都市構想（案）にもつながることかと思うので、次の議題に進めさせていただく。</p>
事務局	<p>③将来都市構想（案）について</p> <p>資料5に基づき説明。</p> <p>《質疑・意見》</p>
林委員	<p>水辺交流拠点について、江戸川河川敷、中川河川敷、大場川を示されているが、拠点ということで点を示しているかと思うが、河川敷全体を指すのか地図内で読み取れる箇所を指しているのかお伺いしたい。</p> <p>また、にぎわい交流拠点について、吉川美南駅周辺が示されているが、現在吉川美南駅東口の駅前公共施設整備検討委員会において、コミュニティ交流というワードも出てくるかと思う。コミュニティ交流も包括したものなのか別のものなのか伺いたい。</p>
事務局	<p>水辺交流拠点について、江戸川においては、防災ステーションや県営吉川公園があり、点となっているが、そこを中心として広く交流できる場所と考えていただければと思う。</p> <p>中川についても、橋の付近を水辺交流拠点としているが、河川敷の改修による上部空間の利用による活用を考えている。</p>

	<p>大場川については、最終処分場跡地の利用を含め、親水性のある交流ができる拠点として考えており、広く見る部分とポイントを絞った部分があるが、いずれも機能を集積していくものと考えていただければと考えている。</p> <p>にぎわい交流拠点については、市内の方だけではなく、市の玄関口として市内外の方が訪れ交流できる拠点となるようコミュニティの部分も含めて拠点として考えているものである。</p>
林委員	<p>中川の部分の水辺交流拠点について、吉川橋周辺から栄えた歴史があるが、水辺交流拠点とするべきかという検討はあったか。</p>
事務局	<p>水辺交流拠点については、スポーツ施設や憩いの場として、市民が余暇を過ごせる箇所として考えており、新川橋付近については、河川敷改修による堤防上部部分の空間活用によるスポーツなどにより交流できるものを見込んで設定している。</p> <p>吉川橋付近については、ご意見のとおり、当市の歴史的にも重要な箇所であることは認識しているが、庁内では水辺交流拠点としての議論はしていない。</p>
秋元委員	<p>前回の地図と比較して、吉川美南駅東口周辺地域には、複合系まちづくり地域、住宅系地域の中に工業系地域が入ってきているが、そのあたりの理由をお伺いしたい。</p>
事務局	<p>ご指摘の箇所については、吉川美南駅東口周辺地域土地区画整理事業において、市街化区域に編入し、現在は土地区画整理事業を進めている。</p> <p>その中で産業ゾーンに位置付けられている箇所を工業系地域に設定しているものである。工業系地域ということで、住宅街の近くに工場が建設されることへの懸念については、周辺に緩衝緑地帯を設置することや、建設物の高さが高くなり過ぎないようにするなど配慮したまちづくりを進めているところである。</p>
石阪会長	<p>時間の都合もあり、あとお二人の意見を伺い、次回に継続審議とさせていただきます。</p>
中島委員	<p>旭・三輪野江はほとんど農業地域としての位置づけで、人口は増えていくのか。人口減少問題がある中で、子どもがどんどん減っていつてしまう状況でよいのか。そのあたりの考えを聞かせていただきたい。</p>
斎藤（和）委員	<p>平沼あたりは歴史的に優れた場所であるが、新たに市民となった方は知らないことも多い。</p> <p>新たな市民と元々の市民が交流できる箇所として、コミュニティ交流拠点はおあしすだけではないと考えており、拠点となると狭まっているような印象を受けるので、コミュニティ交流拠点をもっと面的に見るなど増やしてはいかがか。</p>

石坂会長	<p>お立場やお住いの場所などご自身に関わる部分がこうして出ると、「人口集積が南側だとすると、北側はもう減っていくのか」などのご意見は当然のことである。</p> <p>市としては、計画的に人やまちを形成していくということは必要なことであるが、どういった将来像を描いていくかということは、次回に継続とさせていただく。</p> <p>まとめさせていただくと、将来都市像及び基本理念（案）については、ご意見も頂戴したので、事務局において検討していただき、こちらをベースとしながら進めていただく。</p> <p>将来人口（案）を77,000人とするについては、概ね良いが、もう一度事務局においてエビデンスの部分の整理をまとめていただく。</p> <p>将来都市構想(案)については、もう少し皆様のご意見を伺いたいと思うので、改めてご意見を伺いながらまとめていきたい。</p> <p>次回までにご意見を伺う方法を事務局と検討し、皆様にお知らせさせていただくので、ご協力いただければと思う。</p>
事務局	<p>(3) 次回会議日程について</p> <p>5月のゴールデンウィーク明け以降で考えている。再度お知らせさせていただくのでよろしく願います。</p> <p>(4) その他</p> <p>なし</p> <p>8 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年4月12日</p> <p>署名委員 小林 照男（自署） 署名委員 斎藤 和雄（自署）</p>	